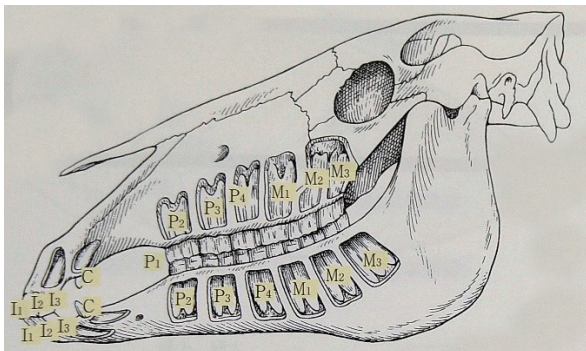


## 馬の歯

静内診療所 野坂拓史

繁殖牝馬の歯は定期的にチェックしていますか？

馬は第一切歯4本と前臼歯12本が生えた状態で生まれ、その後順番に萌出し、切歯および前臼歯は乳歯から永久歯に生え変わりながらおよそ5歳までに全て生え揃い、その後も1年に3～4mm伸び続けます。野生馬の場合は長時間に渡り草を採食することで自然と摩耗していきますが、飼養されている馬の場合、舎飼いや濃厚飼料給与による採食時間の短縮や咀嚼不十分により摩耗異常や歯の変形が問題になります。



I:切歯 C:犬歯 P1:狼歯 P:前臼歯 M:後臼歯

### 歯列異常

よく見られる歯並びの異常としては、階状歯列・波状歯列・斜歯・鉤状突起・歯隙拡大などがあります。そこから口内炎や歯肉炎を起こし、疼痛や感染により採食量減少や嘔み出しをするようになることで、栄養不足・体重減少・不受胎へと繋がります。また、最終的には上顎・下顎の骨や副鼻腔へと感染が広がり蓄膿症や骨髄炎へと発展する可能性もあります。

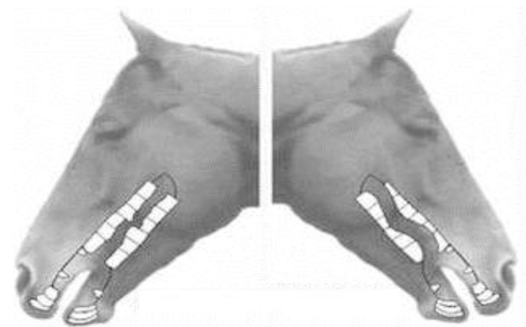
階状歯列や波状歯列とは通常まっすぐな歯列が乱れることで、噛み合わせや採食行動に

障害を起こします。

斜歯とは上顎歯の外側・下顎歯の内側が尖ることで、上顎歯が頬の内側・下顎歯が舌を傷付けることで口内炎などを起こします。

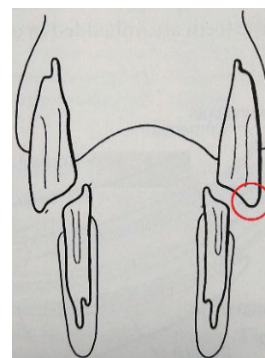
鉤状突起とは上顎では一番前の臼歯、下顎では最後の臼歯が尖ることで、同じく頬の内側などを傷付けて口内炎の原因となります。

歯隙拡大とは歯と歯の間に隙間があいてしまうことで、これにより歯間に飼料が詰め込まれ腐り、歯肉炎を起こします。



階状歯列

波状歯列



斜歯



歯隙拡大

繁殖牝馬でも1年に1回の歯科検診および整歯が推奨されています。また採食時間の延長や嘔み出し、体重減少などの異常が見られた場合には口の中を調べる必要があるかもしれません。